

平成31年度（令和元年度）
全国学力・学習状況調査および佐賀県学習状況調査の
分析結果と今後の取り組みについて

令和元年8月 小城市立晴田小学校

4月に行われた全国学力・学習状況調査（6年 国語・算数）、佐賀県学習状況調査（5年 国語・算数）の結果をお知らせします。

5年国語・算数、6年算数においては、全体の正答率は、県平均とほぼ同じです。
6年国語においては、県平均を大きく下回っています。

正答率を同一児童での比較（同じ児童の平成30年度12月との比較）をすると、5年生、6年生ともに伸びが見られ、取組みの成果が出てきていると思われます。活用力を問う問題については、5年生、6年生国語・算数ともに平成30年12月調査から伸びが見られ改善傾向にありますが、県平均を下回っています。

今回の結果を詳しく分析して具体的な手立てや指導方法をさらに工夫し、今後の指導充実を図っていきます。（分析結果をご参照ください。）

また、同時に行われた「意識調査」の結果では、昨年度と比べて改善が見られた項目も多くありました。ご家庭での生活面もご協力いただき「早寝・早起き・朝ご飯」についても良い結果が出ておりました。今年度改善を要する項目において、さらにご家庭での協力をお願いしなければならない点もありますので、各家庭に配布した結果をご家庭でも今一度ご覧になり、日々の家庭学習や家庭生活での声かけやアドバイスの一助としていただければと考えています。

◆佐賀県学力・学習状況調査から《5年生 国語科》

全体の概要

全体としては県平均とほぼ同じで、平成30年12月調査より伸びが見られた。特に活用力を見る問題で、伸びは大きい。しかし、個々の解答率の散らばりを見ると二極化がみられる。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
聞くこと・話すこと	◎県平均とほぼ同じ ・「当てはまらないもの」といった問題文の理解に課題がある。	・文章を大まかに捉えて表記させる。 【あらすじや要旨】 ・題材を身近なところから広げていく。 ・言葉の意味を確実におさえていく。
書くこと	◎県平均とほぼ同じ ・問題のモデル文を参考にして、題意に合った文を書くことができている。	・例を示し、文章表記のパターンを習得させる。 文末表現、根拠の提示、文字数など
読むこと	◎県平均とほぼ同じであるが、おおむね達成に至っていない。 ・問題文を読み切っておらず、条件を理解することに課題がある。 ・時間が不足し、無回答率が高い。 時間配分ができていない	・「条件に合わせて書く」時間を設定する。 ・ワークやテストの解説を十分に行う。 ・長い文章を読む習慣をつける。 【図書室との連携】
言語事項	◎県平均とほぼ同じ ・送りがなの習熟が不十分。 ・主語、述語の理解が不十分。	・単語でなく、文章で書き取り練習をさせる。 ・「誰(何)が(は)」「どうした」を必ずおさえる。
活用	◎県平均を大きく上回るものの、おおむね達成に至っていない設問がある。 ・問題の意図をつかみ、条件を満たすことに課題がある。	○自主学習の共通課題として ・新聞など活字に触れる時間を設ける。 ・モデルを提示して書くことに慣れさせる。

◆佐賀県学力・学習状況調査から《5年生 算数科》

全体の概要

全体として県平均とほぼ同じであり、「知識・理解」については県平均をやや上回っている。到達基準に関しては、「考え方」において「おおむね達成」を満たしていない。また、無回答率において「数量関係」「記述式」「活用」区分が突出していることから、記述で解答する問題に課題がある。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・理解 数量や図形の	◎県平均を上回っている。 ・「重さの単位」「除数が1位数で被除数が2位数の場合の除法の筆算の仕方」に関しては県平均を大きく上回っている。 ・「四則の混在した式の意味」についての理解に課題がある。	・「ぐんぐんタイム」や家庭学習で「四則の混在した式の意味」についての補充を行う。 ・授業の中でも、「意味」や「仕組み」についても理解を深めるため、「あいあいタイム」を意識的に取り入れていく。

数量や図形についての技能	◎県平均とほぼ同じ。 ・「折れ線グラフの変化の様子を読み取る」 「除数2位数で被除数が3位数の場合の除法の筆算」に課題がみられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぐんぐんタイム」や家庭学習で、課題について繰り返しドリル学習等を行い技能や表現力の定着を図る。
数学的な考え方	◎県平均とほぼ同じ。 ・「長方形の面積と横の長さから縦の長さの求め方を考える」問題や「示された情報を活用して解決する」問題に課題が見られる。	
活用	◎県平均とほぼ同じであるが、「おおむね達成」を満足していない。 ・提示された情報を活用して問題を解決する方法の説明に課題がある。	

◆全国学力・学習状況調査から《6年生 国語科》

全体の概要

県平均を大きく下回っていた。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」について県平均をやや下回る正答率であった。また、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については大きく下回った。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
話すこと・聞くこと	◎県平均を下回る。 ・「話すこと・聞くこと」を問う問題であるが長文のため題意が読み取ることができていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぐんぐんタイム」を活用し、計画的に類似問題に取り組む。 ・長い文章を読む習慣をつける。 <p style="text-align: right;">【図書室との連携】</p>
書くこと	◎県平均を下回る。 ・条件作文はやや苦手としているが、県平均なみであった。 ・題意に合った適切な表現の選択が大きく下回っていた。	<ul style="list-style-type: none"> ・日記などの日頃の作文において、条件を付けて書かせ、助言していく。
読むこと	◎県平均を下回る ・読み取ったことを条件に合うように作文することについて県平均を大きく下回っている。 ・無回答はなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のふり返りの時間を活用し、視点にそった文章を書く取組みを継続していく。
言語事項	◎県平均を大きく下回る ・同音異義語の正答率が低い。 ・文章にあった漢字の活用ができていない。 ・習熟が不十分。	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の漢字の宿題の取組みせ方を工夫する。習熟の方法として、書き写すだけでなく、文章の中で使うような練習をする。

◆全国学力・学習状況調査から《6年生 算数科》

全体の概要

全体として、全国・県平均とほぼ同じであった。各領域で見ると、図形の分野において県平均を大きく下回っており、重点課題である。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・理解 数量や図形の	◎県平均とほぼ同じであった。 ・計算の技能はあるが、式や答えの意味を理解できていない。	・式や答えが表す意味について理解できるように、授業の中で丁寧に取り組んでいく。
技能 数量や図形についての技	◎県平均とほぼ同じであった。 ・図形の性質や構成要素に着目し、イメージして解決する問題に課題がある。 ・固定観念にとらわれてしまい、多様な考えができていない。 ・倍の意味の理解が不十分。	・図形の操作活動を授業に取り入れる。 ・アセスメントシートの結果を元に、各学級の実態に合った認知トレーニング（注意力、集中力をつけ、目や耳からの短期記憶を鍛えるもの）を取り入れ、学習の素地を整える。
数学的な考え方	◎県平均とほぼ同じであった。 ・「わり算」の「わられる数」「わる数」「商」の関係の理解が不十分。 ・算数用語を用いて考えを表すことに課題がある。	・授業の中で文章を書く練習をする際に、ヒントカードを使った個別支援を行う。
活用	◎県平均とほぼ同じであった。 ・文章問題において、題意を把握して、何を使って問題を解くべきかを考えることに課題がある。	・長文の問題の演習を行っていく際に、わかっていることや求めることに線を引かせるなどして、確実に問題文を読み取らせる。